

「全鍍連」 2019年 4月号 理事長のよこがお

茨城県鍍金工業組合 理事長 溝口 輝明

「グローバル かしま」



茨城県鹿嶋市は、Jリーグ鹿島アントラーズ旗揚げと共に「2002年ワールドカップ開催地」となり、リーグの立役者となったのが「白いペレ」「黄色い妖精」「サッカーの神様」などと称賛された“ブラジルを代表するジーコなのである”。鹿嶋市民の象徴的存在で名誉市民でもある。世界的スーパースターを迎え入れたことにより「鹿島アントラーズ」は片田舎のチームから日本を代表するクラブとなり、奪還タイトル数・20冠達成（2018年）した。一時期、世界の有名選手を迎え入れていたが、現在は、日本の若い優秀なJリーガーを育て、他のリーグへ送り込むまでに成長したのである。



名言となった「ジーコ スピリット」なのである。

由緒ある「神道の街・鹿島神宮」のお膝元に見たこともない外国人がカッポする町へと変貌し、日本語しか使うことのなかった市民は、一機に国際化する事となり「英語・ポルトガル語・スペイン語など」外国語講座が街のあちこちで開講された。

その様なこともあり、来訪する外国人の対応策として「鹿嶋市国際交流協会」が産声を上げるのである。

私は、四代目 会長に就任し4期8年となります。当時の協会は、外国人に対し「ウェルカム」の気持ちでお迎えするツールとして始められたとお聞きしておりますが、現在、市内在留外国人は、900人余りとなり、多様な形で住み続けております。少しだけ、協会のイベントの紹介をしましょう。

「外国人による日本語スピーチコンテスト」「バスツアー・世界食文化交流」など多くのイベントを開催しながら共生社会構築をしております。特に外国人による日本語スピーチコンテストは、開催回数18回を迎え延べ出場者数180名を超え県内でナンバーワンと称賛され、過去に「外国人スピーチコンテスト・全国大会」で優勝者を出すほどの歴史があります。

ユニークな発表をご紹介します。



「お座敷あります」

初来日の韓国人男性体験談です。特に面白かったのでご紹介いたします。

お腹がすいたので食堂に行った、お店の中を見回すとメニュー看板の隣に「お座敷あります」と大きな文字で書いてあり日本料理のなかでも特別美味しい食べものに違いないと思い込み、ホール係の人に「これください」「はい」と気前よく返事、すぐにテーブル席から和室へ通されたので「お座敷という料理はどんな料理がでるのだろうか??」しかし、どんなに待っても何も出てこない。お腹はどんどん空くし、さらに片言の日本語でもう一度「お座敷料理ください」と催促しても「はい」の返事だけ一向に何も料理は出ない。暫らくしてこれはメニューでないことが、なんとなく解りやっとの思いで日本料理にありつけた。

「日本の歯磨きチューブ」

ペルーの女性の思い込みの話。

スーパーに歯磨きチューブを買いに行ったが日本語が全く分からないので、陳列棚に並ぶ歯磨きチューブに似た絵柄見て、あっこれだ「私は、やっぱり頭いいね、すぐ見つけることできた??わあーい。」この思い込みがとんでもない事件に発展するのです。

「これだ」と思い込んでいるから、アパー

トに戻り歯磨きを始めた。ところが、歯磨き粉と思っていたチューブは、本格的入れ歯固定剤だったので、歯ブラシと歯が、固定されとれなくなってしまった。

救急病院に駆け込むエピソード。

「日本の缶詰 世界一安い」

大型スーパーでよく見かける5個セット缶詰激安パック、あまりの安さに惚れ込んで5個セットで箱買いをー。

今日からは、私の腕のみせどころねー。

「ヤッパ 何でも日本は安いよね・・・?」

「これをアレンジして、色々なメニュー出来そうねー?」「ヤッター」

「私の得意料理に変身させようー。」と・・・。
しかし「煮ても 焼いても 蒸しても 臭い 臭い・・・。」

調味料が、合わないのだろう?と、スーパーで日本人が使うものを買って替える。いくら研究しても何か変だ。そこで知り合いの日本人に見てもらい「この缶詰 何をして味がよくなりません、日本人は、どのようにして食べますか。」

速攻、「貴方これ犬用のドックフードよ」

「人間の食べ物では、無いからね。」

数日間かけて調理した缶詰は、私の思い込みによる「大間違いが判明」

など外国人の驚き体験は腹を抱えるほど笑える発表です。

総じて感じることは、外国人は日本人よりも日本の事を知っていると思う。